

大規模イベント時におけるし尿等衛生処理についての提言 (改訂継続)

桐生八木節まつり（以下、まつり）には、当市人口の約5倍にあたる50万人の来桐者があり、例年の課題となるのが簡易し尿処理施設の不足です。昨年は仮設トイレが数か所に設置され、改善の兆しが見えましたが、未だその数は不足しています。また、排せつ後の手指を洗う場所がなく、衛生管理ができていない手指のまま祭に参加する来場者が多数いました。

夏場は細菌性の食中毒が多発する時期でもあり、ケータリングや屋外で食事を提供する飲食店には、食品衛生管理上の指導が徹底されます。しかし、参加者の手指にばい菌が付着している状態では、屋台から購入した際や雑踏の中で他者と接触することで、感染の恐れがあります。

祭の大規模化に伴い、安全衛生管理の主催者側の責任は非常に大きくなります。これらの問題が生じる前に、祭の来場者、出店者、関係者が安心して祭に参加できるような対策を以下に提言します。

- ・わかりやすい施設配置
駐車場や園地の入口など、利用動線を考慮した施設配置を行う。
- ・安全性を考慮した施設配置と構造
性犯罪、盗難、つまずき、すべりによる事故の防止に注意を払った施設配置と構造を整える。
- ・清潔の維持
排泄空間の快適性と清潔さを維持し、排せつ後の手指の衛生管理のための手洗い場を確保する。
- ・使いやすい構造
ブースの大きさや荷台の設置など、使いやすいトイレの構造に工夫を凝らす。
- ・社会的弱者への配慮
高齢者、子供、障がい者などへの利用にも配慮する。

桐生市からの回答

大規模イベント時におけるトイレ等の不足については、主催者にとって大変大きな課題であることと認識しており、来場された方が、安全かつ安心してイベントを楽しむためにも、公衆衛生を保全することは大切であると思います。

このことにつきましては、桐生八木節まつり協賛会のご尽力により、今年の桐生八木節まつりにおきましても、土地所有者及び周辺店舗等のご理解ご協力をいただきながら、仮設トイレを設置することができました。

しかし、仮設トイレの設置については、トイレから生じる異臭の問題等、イベント関係者や近隣住民との綿密な調整が必要であり、今回の設置状況等を精査し、今後におけるトイレ整備について引続き調査研究をしてまいりたいと考えます。

[回答担当] 産業経済部 観光交流課 観光振興担当